

COG2025 応募内容確認書

ID	1-1-1
自治体名	北海道室蘭市
自治体提示地域課題	「室蘭が好き。」を増やして、みんなで住み続けたいマチを創る
チーム名	M-Prime
アイデア名	きゃりとり
チーム属性	学生：学生（ ）だけで構成されたチーム
チームメンバー数	5
代表者	徳山 太陽
メンバー（公開）	徳山 太陽

【確認事項】

- < 応募のPDFファイル名と送付先 > 確認しました。
- < 応募内容の公開 > 確認しました。
- < 知的所有権・肖像権 > 確認しました。問題ありません。

COG2025 アイデア提案書

チーム名	M-Prime
アイデア名	きやりとり
自治体	室蘭市
自治体提示の地域課題	「室蘭が好き」を増やして、みんなで住み続けたいマチを創る

1. アイデアの全体像 (What)

1-1. 提案するアイデアのあらまし

猛暑の都市部を脱出し、涼しい室蘭で過ごす大学2年生向けの「滞在型キャリア観光（ワーケーションの学生版）」である。市内の「空き家・空き室」を活用した格安滞在拠点「協力マンション」を提供し、移動手段として「レンタサイクル」を整備する。学生は観光を楽しみながら、スタンプラリー形式で地域企業を訪問し、採用面接ではない「人生相談」や「地元案内」を受けることができる。「就活はまだ早い、将来は少し不安」という学生心理に寄り添い、観光しつつプレインターン観光以上・インターン未満のような気軽な接点を作ることで、室蘭の関係人口を創出します。

1-2. 提案するアイデアの内容 (5W1H)

Who (誰が)

運営主体：M-Prime（学生チーム）×室蘭市役所×地元企業連盟
協力者：物件オーナー（空き家提供者）、地域企業の社員

Whom (誰に対して)

首都圏・関西圏の大学2年生。
「旅行はしたいが旅費を抑えたい」「猛暑が苦手なアウトドアに行けない」
「ガッツリ就活は嫌だが、将来のヒントは欲しい」

When (いつ)

大学の夏休み期間

Where (どこで)

滞在：市内の登録された空き家・空室（協力マンション制度）。
活動：室蘭市内のサイクリングロード、観光名所（地球岬・イタンキ浜・工場夜景）、地域企業。

What (何を)

2泊3日の「きやりとり」プランを提供する。

【宿】 格安での宿泊提供。

【移動】 自転車移動による市内周遊（広い道路と海沿いの爽快感）。

【インターン要素】 企業訪問「オープントイム」。社員の人生観を聞いたり、地元ならではの穴場スポットを教えてもらう。

【得】 スタンプラリー達成による特典旅費割引インセンティブ&早期選考パス（希望者のみ）。

How（どのように）

システム： 企業DBと空き部屋DBを連携させた予約サイトを導入。面倒な日程調整は不要で、学生はスマホから「企業訪問」や「宿泊場所」をITで一元管理・予約できる仕組み。

SNS発信： 参加学生が「#室蘭涼しい」「#きゃりとり」で旅の様子を発信することで、特典割引が適用される仕組み。

マッチング： 「評価される場」ではなく「安心して話せる場」として企業訪問を設計し、心理的ハードルを下げる。

2. アイデアの理由（Why）

2-1. 理由のポイント

このアイデアは、都市部の「夏の課題（猛暑）」と、室蘭の「地域課題（人口減・空き家・企業採用難）」という両者の異なるニーズを、互いの持つ資源（涼しさ・空き家・地元企業）で解決し、将来的な定住にもつながる持続可能な関係人口を生み出せるからである。

【学生にとってのメリット：「夏を涼しく、賢く、安く過ごしたい」】

都市部の学生が抱える「金欠」「記録的な猛暑」「漠然とした将来への不安」という夏の課題を、室蘭の持つ「格安の空き家滞在」「涼しい気候と爽快な自転車移動」「採用選考ではない安全な企業交流」によって同時に解決できる。本格的な就活をまだ始めている大学2年生にとって、心理的ハードルの低い形でキャリアのヒントを得られ、費用対効果の高い夏休みを提供できる。

【企業にとってのメリット：「負担なく、若手と素の状態で接点持ちたい」】

従来のインターンシップのような多大な準備負担を必要とせず、学生と地域に根差した先輩としてカジュアルな接点（オープンタイム）を持てる。企業の採用体制が脆弱でも参加しやすく、就活初期の段階から素の学生の興味関心や人柄に触れることで、採用ミスマッチのリスクを大幅に軽減しながら、若者との新たな接点を効率的に確保できる。

【自治体（室蘭市）にとってのメリット：「地域の資源と課題を価値に転換したい」】

深刻化する人口減少や若者の社会減、そして活用が進まない高い空き家率という地域の課題や負の遺産を、学生の宿泊拠点として活用することで「新たな価値」に転換できる。観光資源と組み合わせることで、室蘭の認知度とイメージを向上させ、将来的なU・Iターン候補となる関係人口を、着実に増やせる。

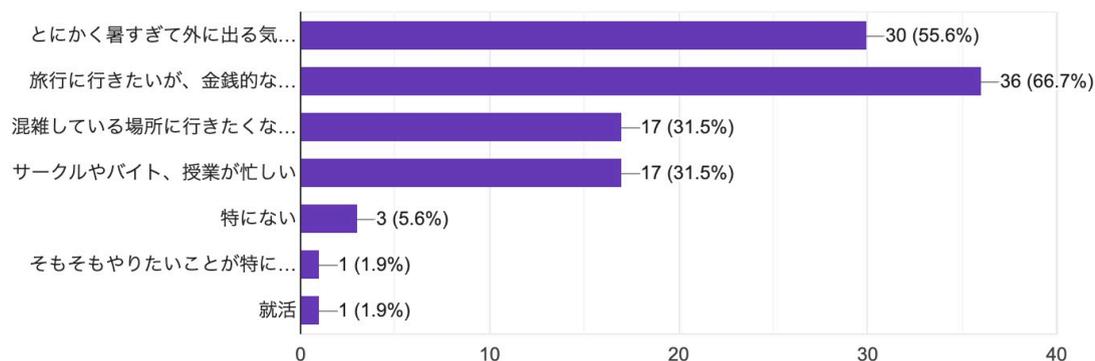
2-2. 根拠と裏付け

【54人へのアンケートによる2回生が暑さや金銭が旅行の障壁になっているというデータ】

Q1. 今年の夏の過ごし方や旅行について、「ハードル」になっていることは何ですか？（あてはまるものをすべて選んでください）（1,2回生以外の人は2回生だったときのことを思い出して解いてください。）

 グラフをコピー

54 件の回答



とにかく暑すぎて外に出る気になれない（猛暑）

旅行に行きたいが、金銭的な余裕がない（金欠）

混雑している場所に行きたくない（人混み）

サークルやバイト、授業が忙しい

特になし

【54人へのアンケートによる2回生が就活に不安あるというデータ】

Q2. ご自身の「将来」や「就職活動」について、現在の心境に最も近いものはどれですか？（1,2回生以外の人は2回生だったときのことを思い出して解いてください。）

 グラフをコピー

54 件の回答



<https://www.city.muroran.lg.jp/administration/?content=7909>
 【室蘭の人口減少に関するデータ】

第3章 室蘭市の人口の現状分析

1. 人口推移

(1) 総人口と世帯数の推移

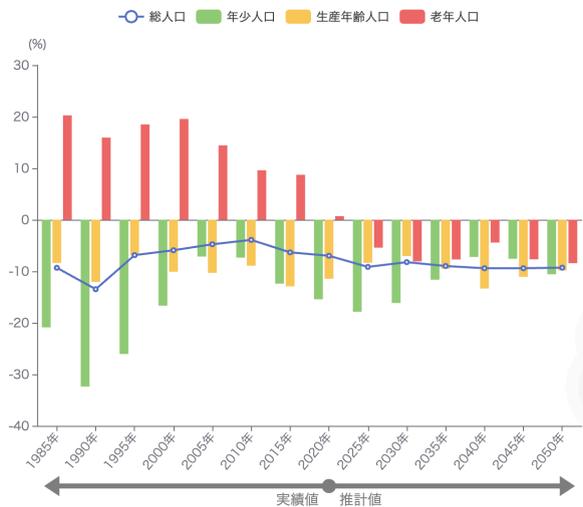
室蘭市の総人口は、1970（昭和45）年の16万2,059人をピークに減少を続けています。2020（令和2）年には8万2,383人となり、ピーク時から約半減となっています。

2023（令和5）年12月に公表された社人研の推計によると、このまま現在の減少傾向が続いた場合、室蘭市の人口は、2050（令和32）年には約4.7万人まで減少すると予測されています。

1世帯あたり人員は、1940（昭和15）年に5.42人であったものが、2020（令和2）年には1.97人まで減少しています。これは核家族化に加え、高齢化に伴う高齢者単独世帯の増加等が影響しています。



人口増減 北海道室蘭市



<https://resas.go.jp/population-sum/?pref=01&city=01205&tab=1&year=2020&level=city&lat=42.34129022434778&lng=140.79803466796878&zoom=9&opacity=0.8>

【室蘭の空き家に関するデータ】

室蘭市の「空き家」関連データ

昨今、空き家の増加が問題となっており、空き家の対策を行っている自治体も多くあります。ここでは、自治体が行っている空き家対策について紹介します。

▼ 周辺地域のデータをチェック

周辺地域とデータを比較

登別市 伊達市

土地・住宅

出典・用語解説

空き家率	20.11 %	646位 (815市区中)
賃貸用住宅の空き家率	25.17 %	562位 (815市区中)

<https://www.seikatsu-guide.com/keyword/1400/1/1205/>

【室蘭にある企業が採用活動に苦しんでいることを示すデータ】

労働需給のミスマッチと人材の偏りについて

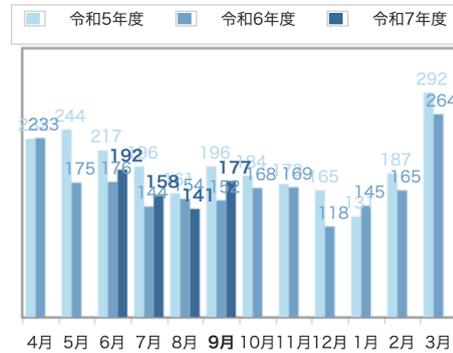
企業は人手不足: ハローワーク室蘭管内における有効求人倍率は継続して1.0倍を上回っており、これは求職者数に対して企業からの求人数が多く、地元企業全体が継続的に働き手を求めている状況を示している。

希望職種とのミスマッチ: しかし、求職者が希望する「事務的な職業」の有効求人倍率は低水準にあり、求職者の希望と企業が本当に求めている人材（専門職や現場職など）との間に大きな需給ギャップが生じている。

都市部への流出: 室蘭市は特に20～30代の社会減が深刻化しており、北海道の地方都市共通の課題として、学生が札幌圏など都市圏を志向し、地元企業の認知度不足が採用の壁となっている。

https://www.hwiroha.com/area/Hokkaido_Donan/Muroran.html

ハローワーク室蘭の有効求人倍率（常用、原数値）の推移 ハローワーク室蘭の就職件数（一般）の推移



3. 実現までの流れ（How）

3-1. 実現する主体

企画・運営・広報：学生プロジェクトチーム（M-Prime）＆市役所(全体統括と対外的な信頼性の担保を担う)

受け入れ企業調整：企業が受け入れ可能を提案→市役所が管理
 物件管理・提供：地元不動産会社・空き家オーナーバンク

3-2. 必要な資源と調達方法

【ヒト】

学生サポーター（現地案内・SNS運用）、受け入れ企業のメンター社員（若手が望ましい）

大学職員(学生にプログラムを紹介する)

【モノ】

協力マンション市内の空き家バンク登録物件や、オーナー協力による空室の借り上げで交渉する
 移動手段：自転車のレンタル整備（既存のレンタサイクル事業の拡張）、電車
 アプリ/ツール：企業訪問スタンプラリー用カードまたはLINE公式アカウント

【カネ】

初期費用：きやりとり告知費用

運営費用：参加企業からの協賛金（採用広報費として）、学生からの参加費（格安設定）

3-3. 実現までのプロセスと時間軸

【フェーズ0：システム準備】

企業DBと空き部屋DBを連携させた「予約管理サイト」の設計・開発。

【フェーズ1：実証実験（1年目夏）】

モニターツアーの実施。

協力企業5～10社の開拓。

既存のゲストハウス等を利用し、コンテンツ（企業訪問・サイクリング）の満足度を検証。

【フェーズ2：制度構築（1年目冬～2年目春）】

「協力マンション制度」の条例整備やガイドライン作成。保険加入の仕組み構築。

受け入れ企業向けマニュアル（学生との話し方ガイド）の作成。

Webサイト・SNSの立ち上げ。

【フェーズ3：本格稼働（2年目夏～）】

一般公募開始。

参加学生によるSNS発信キャンペーンの展開。

事後アンケートを基に、早期選考パスやインターンへの接続フローを強化。

3-4. 想定リスクとその対応策

リスク：サイクリング中の事故や怪我、破損

対応：参加費に旅行保険を含む。ヘルメット着用の義務化と安全マップの配布。

自転車が破損した場合の対応策も考えておく。(自転車の交換等)

リスク：学生と企業のミスマッチ（話が弾まない等）

対応：企業側に「会社説明」ではなく「地元の先輩としての雑談」を推奨するトークテーマリストの配布、企業が話す大まかな内容はあらかじめ把握しておき、プロジェクトとミスマッチがないか確認しておく

リスク：空き家利用のマナー問題

対応：入居時の誓約書提出と、学生スタッフによるチェックイン時の対面ガイダンス実施。近隣住民への説明を予め行なっておき、近隣トラブルも起きないように対策する

リスク：天候などの影響による、急な予定変更(サイクリングが出来ない等)

対応：電車など、他の交通機関での移動経路、代替案を組んでおく